

2023 年 11 月 1 日

報道関係各位

カルチュア・エクスペリエンス株式会社

第 4 回「TSUTAYA えほん大賞」**大賞は柴田ケイコさんの『パンどろぼう おにぎりぼうやのたびだち』に決定！****『パンどろぼう』シリーズは殿堂入り****～TSUTAYA・蔦屋書店で受賞作品のフェアを開催～**

カルチュア・エクスペリエンス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：鎌浦慎一郎、以下「CX」）は、“50 年後も読まれている作品を TSUTAYA で育てていきたい”という願いを込めた「TSUTAYA えほん大賞」の第 4 回受賞作を、大賞は『パンどろぼう おにぎりぼうやのたびだち』（著者：柴田ケイコ、出版社：KADOKAWA）、新人賞は『はるとスマレ』（著者：eto、出版社：偕成社）に決定いたしました。なお、受賞作品は 11 月 1 日（水）より全国の TSUTAYA・蔦屋書店の書籍売り場にてコーナー展開をいたします。（その他受賞作品は下記参照）

第 4 回「TSUTAYA えほん大賞」：<https://tsutaya.tsite.jp/article/book-comic/1642.html>

「TSUTAYA えほん大賞」は、全国の TSUTAYA・蔦屋書店の児童書に関わる担当者が、自分の子どもに読み継ぎたい・語り継いでいきたい、50 年後も読まれている作品を TSUTAYA で育てていきたい、という願いを込めて、直近 1 年間に出版された絵本の中から選出する賞です。受賞作品を店頭展開で盛り上げ、先々ロングセラーへと育てていくことを目指しております。なお、昨年の大賞作品『かみはこんなにくちゃくちゃだけど』（著者：ヨシタケシンスケ、出版社：白泉社）の TSUTAYA・蔦屋書店での販売数の受賞発表前後比は 143%（※）と伸長しています。（※発表前 2022 年 9 月 1 日～10 月 31 日、発表後 2022 年 11 月 1 日～12 月 31 日における比較）

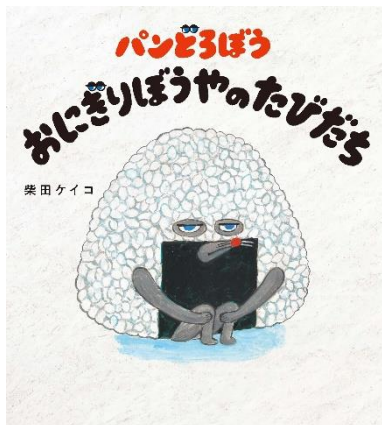


第 4 回となる今回、大賞に選ばれた『パンどろぼう おにぎりぼうやのたびだち』には、選出した書店員から「パンどろぼうにこんな過去があったとは…！今回はおにぎりもパンも出てきて 2 倍おいしそうです」「えっ!? あっ!! そういうことだったのか!!!…って感想が、絵本を読んで出てきたのは生まれて初めてかもしれません…やっぱりすごいぞパンどろぼう」といった声が寄せられました。本作はシリーズを通して 3 回目の大賞受賞となり、『パンどろぼう』シリーズを「TSUTAYA えほん大賞」の殿堂入り作品といたします。

TSUTAYA は今後も、「TSUTAYA えほん大賞」を通して、お客様が今まで知らなかった新しい絵本に出会える機会をつくり、受賞作品が長く読まれ続けていくよう店頭展開等で盛り上げてまいります。

■第4回「TSUTAYA えほん大賞」受賞作品

<大賞> 『パンどろぼう おにぎりぼうやのたびだち』(著者：柴田ケイコ、出版社：KADOKAWA)



今回パンどろぼうシリーズで3度目の賞をいただき光栄です。書店員と読者の皆様心から感謝いたします。皆さんはパン派、おにぎり派どちらでしょうか。これからは驚きとワクワクをお届けできたらと思っています。

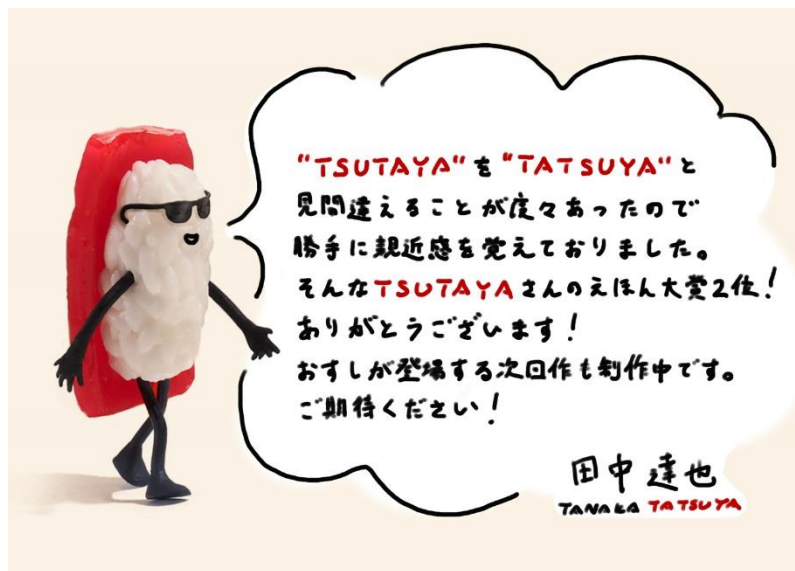


【書店員コメント】

パンどろぼうになるまでのお話というところがいい！！シリーズの中で、一番好き。

(TSUTAYA BOOKSTORE 重信 熊 愛水)

<2位> 『おすしがふくをかいにきた』(著者：田中達也、出版社：白泉社)



【書店員コメント】

次はなに屋さんがでてくるのかな♪とページをめくるのが楽しみになります。人間世界のものをミニチュアの中に置いてこんなにもリアルな写真ができるのかと驚きました。

(コスモブックセンター 堀 朋加)

<3位> 『おふろおじゃまします』（著者：たしろちさと、出版社：文溪堂）



【書店員コメント】

ああ…これこそ絵本の醍醐味…！"がたんごとん つきました"のあとのわくわくする気持ち、そして夢のようなたくさんのおふろ。こどもの頃に読んでいたら、毎日のように「読んで」とせがんでいたと思います。(TSUTAYA リノアス八尾店 長岡 和可子)

<4位> 『ぼくはいったい どこにいるんだ』（著者：ヨシタケシンスケ、出版社：ブロンズ新社）



【書店員コメント】

子どもから大人になる人に特におすすめしたい本。私は、自分の子が20歳の誕生日の時に渡そうとおもっています。

(六本松 蔦屋書店 加藤 美奈子)

<5位> 『パンダのおさじと フライパンダ』（著者：柴田ケイコ、ポプラ社）



【書店員コメント】

5歳児がめっちゃめっちゃ踊りながら「ぱんだっちゅのぼー！」ってやっています。柴田先生は本当に子どものツボがわかっていらっしゃる…。

(精文館書店 商品部 菅井 理恵)

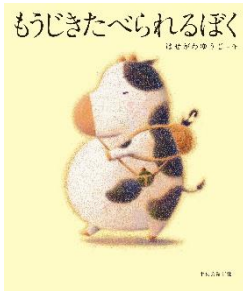
<6位> 『いちじくのはなし』（著者：しおたにまみこ、出版社：ブロンズ新社）



【書店員コメント】

たまごのはなしからの待望の2作目。期待を裏切らないです！ホラ吹きいちじくのホラの吹き方が絶妙で取り巻くまわりも、最高です。私も、子供も何度も読んでいます。(名古屋みなと 蔦屋書店 安藤 真紀)

<7位> 『もうじきたべられるぼく』（著者：はせがわゆうじ、出版社：中央公論新社）



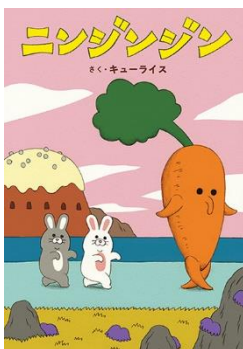
【書店員コメント】

切ないお話です。当たり前ですが、命をいただいている牛にも大切な家族がいるんですよ。

感謝を忘れてはいけなかったと思います。子どもにも読みたいです。

（周南市立徳山駅前図書館 田畑 直美）

<8位> 『ニンジンジン』（著者：キューライス、出版社：白泉社）



【書店員コメント】

なかなか捕まらない『ニンジンジン』。『ニンジンジン』を捕まえようとする2匹のうさぎ。この攻防戦がおもしろい。子供に読んであげたいなと思いました。

（TSUTAYA 名瀬店 高見 陽子）

<9位> 『しりながおばけ』（著者：たなかひかる、出版社：文響社）

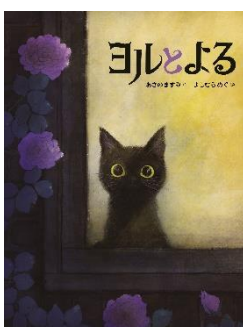


【書店員コメント】

こんなおばけがいるって発想はどこからでくるの？爆笑!!!

しりながおばけの後ろでちょこちょこしているどろぼうとおまわりさんがまたサイコー！（TSUTAYA 南谷店 石木戸 美穂子）

<10位> 『ヨルとよる』（作：あさのますみ 絵：よしむらめぐ、出版社：教育画劇）

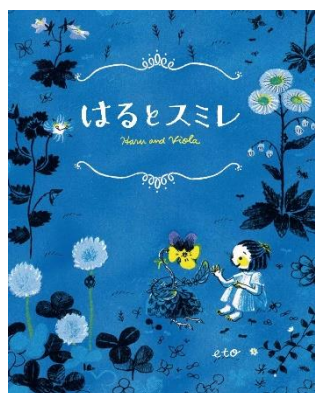


【書店員コメント】

大好きな絵です。違う環境で育った二人が、お互いのことを知って仲良くなっていくさまがとても微笑ましいですね。お互いが認め合い新しい体験をしながら成長していく。この先の2人を見てみたいなと思いました。

（広島 蔦屋書店 宮本 陽子）

<新人賞> 『はるとスマレ』（著者：eto、出版社：偕成社）



【書店員コメント】

とても美しいイラストで、その不思議な世界観から想像力を大いに掻き立てられます。お子さまに読み聞かせた後、どんなことを感じたかを聞くのが非常に楽しい作品です。

(TSUTAYA 本部 加藤 有香)

■ご参考：「TSUTAYA えほん大賞」過去受賞作品

2020 年実施 第 1 回：『パンどろぼう』（柴田ケイコ／KADOKAWA）

2021 年実施 第 2 回：『パンどろぼう vs にせパンどろぼう』（柴田ケイコ／KADOKAWA）

2022 年実施 第 3 回：『かみはこんなに くちゃくちゃだけど』（ヨシタケシンスケ／白泉社）

■「TSUTAYA えほん大賞」とは

全国の、TSUTAYA・蔦屋書店の児童書に関わる担当者が自分の子どもに読み継ぎたい・語り継いでいきたい、50 年後も読まれている作品を TSUTAYA で育てていきたい、という願いを込めて直近 1 年間に出版された絵本の中から選出。受賞作品を店頭展開で盛り上げ、先々、ロングセラーへと育てていく賞です。

本件に関するお問い合わせ：

カルチュア・エクスペリエンス株式会社
広報室

TEL：03-6774-7814／MAIL：cx_press@cl-ex.co.jp